

2020年10月1日

NPO 法人 IBD ネットワークによる

「未来を拓く声明」を強く支持します

一般社団法人日本難病・疾病団体協議会 (JPA)

代表理事 森 幸子



私たち、一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会は、9月6日に発表された、NPO 法人 IBD ネットワークによる「未来を拓く声明」を下記の通り、強く支持します

#### 記

安倍前内閣総理大臣の辞任を契機に、その持病である潰瘍性大腸炎や難病について、多くの報道や解説がなされています。一方で、この病気や難病への間違った理解や、患者に対する偏見、差別を含む言動が SNS を中心に発信されているのも事実です。

このような状況の中で、潰瘍性大腸炎やクローン病などの患者家族の会の全国組織である、NPO 法人 IBD ネットワークから、「未来を拓く声明」が発表されました。これは、難病を持ちながら働き、一生懸命毎日を生きている多くの患者の苦しみと希望を表明したものです。

難病はその確率は低いものの、国民のだれもが発症する可能性があります。このため、難病をめぐる数々の課題は、その当事者の患者やその家族だけではなく、広く国民の理解を得て、国民全体が取り組み、解決していかなければなりません。

NPO 法人 IBD ネットワークによる「未来を拓く声明」は、病気を持つ人を排除するのではなく、多様性として認め、難病の患者及びその家族を社会が包含し、支援していく社会となることを願い、目指すものであり、私たち一般社団法人日本難病・疾病団体協議会は、日本の難病や長期慢性疾患の患者・家族団体を代表する全国組織として、これを強く支持します。

以上